地域福祉計画の基本理念

みんなの参加と協働により、
誰もが心地よく暮らせる共生のまちづくりを進めます

座談会

支え合って育て合う「地域の福祉」

芦屋で活動されている「芦屋むぎばたけ」の梅畑さん、「わかば子ども食堂」副代表の濱田さんに活動を始めたきっかけや展望、これから参加したい人へ向けてのメッセージをお伺いしました。

―芦屋で現在の活動をすることに至った経緯や想いをお聞かせください―

梅畑（芦屋むぎばたけ）

子どもを含めた３世代が触れ合うことのできる場所を目指して活動しています。
もともとは、津波により本が流された気仙沼の小学校に送るためにアメリカで本の寄附を募り、小学校に送らなかった英語の絵本を自宅に送ってもらったことが活動の始まりです。英語というとハードルが高く感じますが、楽しんでもらいたくて、日本語と英語を交えて、絵本の読み聞かせや、歌を歌ったり、手遊びしたりしています。

濱田（わかば子ども食堂）

私たちが普段生活している中で、「子どもたちを取り巻くさまざまな課題」が多くあることに気づきました。例えば、子育てについて相談できる友人・知人が少ない、子どもの孤食や食育、仕事と家事の両立などです。そこで私たちがまず「今できること」として選んだのが「食」でした。「食」を通じて、「子育て世帯の家事の負担軽減」のお手伝いや「子育てや家庭の事情の悩み」を相談できる場所、学校になじめないなどの「悩みを持つ子どもたち」が気軽に集まれる場所を自分たちで作れないかな？という気持ちでスタートしました。

「わかば子ども食堂」濱田さん（左）と
「芦屋むぎばたけ」梅畑さん（右）

世の中も「SDGs」という活動が浸透し始めてきた時期でもあり、それらの目標・課題に対して「自分たちに今何ができるのか」という想いを活動の理念にしています。

―活動をしていてよかったと思うことはどういったことがありますか―

濱田

活動をスタートした頃は、恥ずかしくて私たちとコミュニケーションを上手くとれない子どもたちも多かったです。回数を重ねるごとに会話も多くなり、今ではニコニコしながら「ありがとう」と言ってもらえるようにもなりました。子ども達と何でもない会話ができるような距離感になれたことが嬉しいです。
最近では一人暮らしの高齢者のかたの参加も増えてきました。「外出するきっかけにもなるし、話もできるからね」というお言葉をいただいた時も嬉しかったです。

梅畑

子ども、シニア、私たちの３世代のつながりが大切で、シニアと子どもたちが触れ合い、非常に喜んでいるような景色を見ると、ふれあいの大切さを感じます。

―これから地域活動を始めようと思っている人へメッセージをお願いします―

梅畑

迷っている人は、一歩踏み出してほしいです。私自身も非常に迷いました。種をまいて、ひとりで育てるのではなく、まわりが育ててくれると信じて一歩を踏み出してほしいと思います。
まいた種を一緒に育て、一緒に水やりしたいです。参加してくださる人の趣味や得意なことを披露していただき、一緒にそれを楽しむことができるといいですね。自身の持っているタレント（才能）を発揮していただき、みんなで楽しみたいと思います。是非皆さん、ご参加ください。皆さんのご参加をお待ちしております。

濱田

誰でもご参加いただけますので、イベントに遊びに行く感覚で、お気軽に遊びに来ていただければと思います。
また、地域活動を始めようとしているかたには、ぜひチャレンジしてほしいと思います。「面白そう」とか「ちょっとやってみたい」という気持ちで賛同してくれる仲間４、５人と一緒に、無理のない規模でスタートしてみてはいかがでしょうか？
私たちも無理のない回数、できる範囲で活動しています。スタートすることに不安がある場合は、まずは私たちの活動を体験していただくのもいいかもしれません。その際は私たちのSNS を通じてご連絡いただければと思います。

【わかば子ども食堂】子ども食堂、手づくり弁当や無料のフードパントリーを行っています。
第１・２木曜日/潮見集会所・第４木曜日/若葉６番集会所（午後５時～７時）
【芦屋むぎばたけ】３世代が色々なことで交流できる場を作って活動しています。
第１火曜日（午後２時～４時）コープデイズ芦屋組合員集会室

■さまざまな分野や世代が参加する共生のまちづくりを進めます

福祉の分野を超えた、さまざまな世代や多様な分野の企業・団体などの参加を増やし、地域の力が未来へ受け継がれるよう、地域活動の活性化を図り、人材の育成や発掘にも取り組みます。

市民の皆さんや企業・団体・関係機関の皆さんが日々取り組まれている多種多様な活動をつなぎ、広げていくことで、重層的なセーフティネットをつくり、ともに支え合う孤立や排除のない共生のまちづくりを進めます。

暮らしの中の「地域福祉」がわかる冊子

「地域福祉のトリセツ」を学生の皆さんと作りました

野田 珠央さん

祖父母と一緒に老人会などで地域の人とつながることなどのちょっとしたことが地域福祉になるということが分かりました。困っている人が、誰かに相談できて、スムーズに解決できるようなまちになればいいと思います。

山﨑 新さん

「あいさつ」だけでも地域福祉につながることを知って、近所の人にあいさつするようになりました。そうすると、会話のきっかけにもなり、人のつながりができることを実感しました。これからの芦屋は、さまざまな年代の人が、町や地域のレベルで知り合えたら、もっとすごいまち、No.1のまちになれると思います。